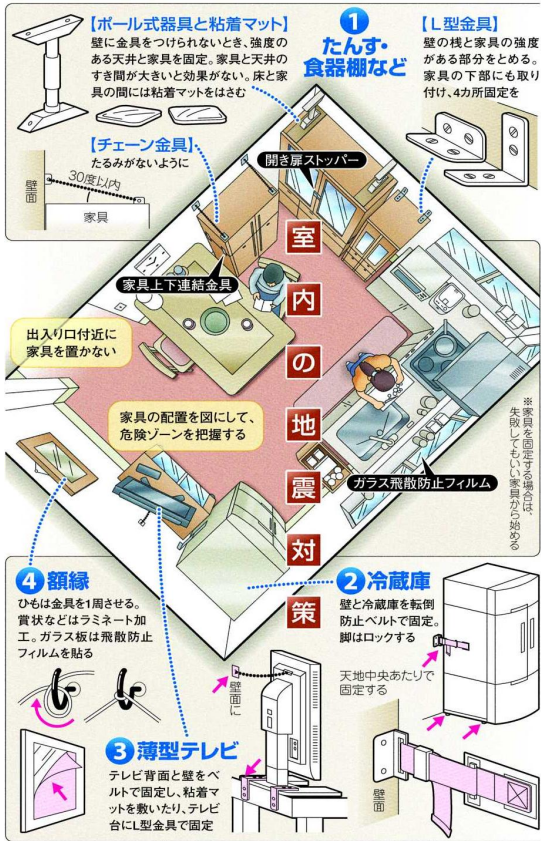


備える 3.11から

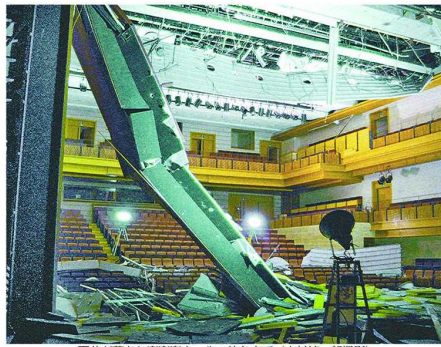
第3回 地震が来た

住宅が倒壊を免れても、飛んできた家具や落下した家電でけがをしたり、亡くなったりする人もいます。自分たちでできる家具転倒の防止法を、震災対策に詳しい一級建築士の鈴木啓之さん

(愛知県豊田市)に聞いた。高齢者宅などを対象に、転倒防止器具の購入に助成をしている自治体もある。壁の材質や強度が分からないなど不安がある人は、専門家に相談を。



# 落ちたつり天井



天井が落ちた楽楽ホール＝仙台市で（中村誠一郎撮影）

## 非構造部材 検査義務なし

仙台市の北東、宮城さん(宮)町は、ショッピングセンター「楽楽ホール」が、大震災で倒壊した。約十年前に開業した「楽楽ホール」は、仙台市の多目的施設。約十年前に開業した「楽楽ホール」は、仙台市の多目的施設。約十年前に開業した「楽楽ホール」は、仙台市の多目的施設。

## 大型施設

建設省が、柱五百平方メートル以上の大型建築物には、柱と梁の接合部を「つり天井」の落下防止に「補強」(地震工学)は、建築物の耐震性を高める。建設省は、柱と梁の接合部を「つり天井」の落下防止に「補強」(地震工学)は、建築物の耐震性を高める。

## 高齢者耐震化「しない」

平均費用220万円。行政が耐震化を急ぐ。除くと四百万円ほどの費用が必要だが、高齢者の命を守るためには安全に家にする。行政が耐震化を急ぐ。除くと四百万円ほどの費用が必要だが、高齢者の命を守るためには安全に家にする。

## 地震対策

## 当面の資金 140万円

毛布とポットと炊飯器。3月11日、自宅から避難した塙さん一家が特別に持ち出ししたのは、この三つだけだった。「今思えば、なんでっていう品物ばかりなんですけど」。愛知県豊田市の県営住宅の居間で、幸さんが苦笑いした。「でも、その時は一晩くらいだと思って

たからな」。光一さんが話を継ぐ。多くの被災者が着の身着のまま避難した東日本大震災。自宅が福島第1原発から1\*の塙さん一家は、あれから何も取りに帰れない。親せきや知人から援助も受けたが、家電製品や衣服の多くは、蓄えを取り崩してそろえた。パソコンとプリンターは10万円もしたが、震災関連の情報集めに欠かせないと購入。今春、大学に進学した

原発1キロからの避難  
いつの日か

— 3 —

梨奈さんの入学式用スーツも自宅に残したため買い直した。

地元で田んぼや畑を持っていた塙さん一家は「コメは買ったことがなかった」。これからは食費も余分にのしかかる。

何より不安なのは、新しい仕事や補償の道筋がはっきり見えず、蓄えだけが減っていくことだ。福島県や大熊町、東京電力から当面受け取れる義援金や補償は

140万円。「避難生活2カ月半。もうそれくらいは使っちゃいましたよ」。頭の中で少し計算した後、光一さんは力なくつぶやいた。

**臨（はなわ）さん一家** 原発事故で福島県大熊町から避難。光一さん（43）と妻幸さん（43）、次女沙也加さん（15）は豊田市で暮らす。長女梨奈さん（18）は東京で大学生生活。